

<事例：小5>

単元名 「生活を支える情報と i ネット飯山」

1 教材化の視点

(1) 学習指導要領のねらい

① 内容の(3)

我が国の通信などの産業について、次のことを見学したり資料を活用したりして調べ、これらの産業は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを考えるようにする。

ア 放送、新聞、通信電話などの産業と国民生活のかかわり

イ これらの産業に従事している人々の工夫や努力

② 内容の取扱い

- ・内容の(3)のイについては、放送、新聞、電信電話などの中から一つを取り上げるものとする。
- ・内容の(3)の指導に当たっては、仕組みや工程に深入りしないよう配慮するものとする。

(2) 教材 ・ i ネット飯山 ・ 全国放送局

(3) 教材の価値

① i ネット飯山

- ・学級の約半数が加入し視聴した経験や、音楽会などでは取材された経験があり、身近な放送局であること。
- ・ニュース番組の時間を増やしたり、投稿ビデオ番組を作ったり身近な情報を視聴者のニーズに合わせて提供している工夫や努力。
- ・人数が少ない中でも、取材や編集に時間をかけ視聴者にわかりやすく伝えようとする工夫や努力。
- ・全国放送局、地方局、i ネット飯山と様々な放送局で働いた経験を持つ澤井さんから放送局の規模に応じた工夫や努力の違いが聞き取れること。

② 全国放送局

- ・大人数で互いに連携しながら正確さやわかりやすさに加えて、速く情報を伝えようとする工夫と努力。
- ・直接の聞き取り調査は難しいが、様々な調査方法を用いて調べることができること。
- ・全国や世界で起きる事件や出来事の情報収集のために他の放送局と連携したり、幅広い情報網を構築したりしていることを知ることができること。
- ・様々な分野の情報が伝えられ、情報をうまく利用して生活しなければいけないことに気づけること。

③ 両方の共通点

- ・地域の放送局も全国放送局も視聴者の立場になって、取材、撮影、編集、放映などの点から正確で、わかりやすく、速く情報を伝える様々な工夫や努力をしていることがわかること。
- ・わたしたちの生活は豊富な情報に支えられていることがわかること。

(5) 単元の目標

① 主目標

テレビと密接に関わった生活をしている子どもたちが、身近なiネット飯山や全国放送局で働く人々の様子を調べることを通して、情報に携わる人々がより速く正確でわかりやすい情報を伝えようとしている工夫や努力とともに、多くの情報によって私たちの生活が支えられていることがわかる。

② 具体目標

A【社会的事象への関心・意欲・態度】

ア 情報を伝える仕事に興味・関心をもち、その仕事の様子を調べようとしている。

イ 調べたことや資料からわかったことを追究しようとしている。

B【社会的な思考・判断】

ア 地方の放送局の工夫は、全国放送に携わる人々の工夫とつながるところがあることに気づくことができる。

イ 情報を有効に活用していくことが大切であることに気づくことができる。

C【観察・資料活用の技能・表現】

ア iネット飯山への見学から自分の疑問が解決できるような事実を調べてくることができる。

イ 調べ学習の見通しをもったり、写真や資料を読みとってわかったことを追究の根拠にしたりできる。

D【社会的事象についての知識・理解】

ア 自分たちの生活が情報であふれ、身の周りには様々な情報伝達手段があることを理解する。

イ 情報が、発信する側から受け取る側に伝達するまでの過程がわかる。

ウ 放送局で働く人々の姿から問題を追究することを通して、情報を伝えるための工夫や努力がわかる。

(6) 本単元の具体的な手だて

① 単元展開の工夫

地域の「iネット飯山」を窓口にして情報に関する理解を深めてから、全国放送局について学習し、情報に携わる人々の工夫や努力が学習できる単元展開を構成する。

② 活動時間の保障

自分たちが調べたことの疑問から予想をたて、問題解決のための調査活動を意欲的に行えるようにし、十分な時間を保障する。

③ 学習問題の工夫

調査内容から自分たちの今までの経験や知識と比較して新たな疑問や“ズレ”が起こるような事実に着目させ、追究が深められるような学習問題を設定する。

④ 共通意識をもたせる体験の場の保障

調査内容や体験したことをもとにして学習問題について話し合い、共通意識の中で社会的事象に対する新たな見方、考え方をもつことができるようにする。

2 単元の展開

本単元は、総合的な学習の時間で、自分たちのニュース作りを体験してきたことを取り入れながら授業展開をした事例である。このように、自分たちの経験を含めながら授業を展開することもできる。

(1) 単元展開の概要 (凡例：斜体…教師の発問，網掛け…子供の意識)

学習活動1：身の回りにおける様々な情報とその手段について調べる。(2時間)

“情報”って何だろう？

<資料；情報伝達手段の写真>

↓

*指導；“情報”とはどんなものを伝える。

↓

身の周りには、いっぱい情報がある。

↓

学習問題；全校稲刈りの日の天気を調べるにはどんな方法があるのだろうか

↓

テレビ・ラジオ・パソコン・携帯電話・新聞などがあるな。

↓

*指導；様々なメディアの長所，短所をまとめる。<資料；それぞれのメディアの天気予報>
<資料；i ネット飯山の天気予報>

↓

i ネット飯山は、時間や場所など細かいところまでわかって便利だな。

学習活動2：地域の放送局である“i ネット飯山”について知り、見学計画を立てる。(1時間)

“i ネット飯山”ってどんな放送局だろう？

<資料；i ネット飯山の番組表>

<資料；NHK長野放送局を想起できるもの>

↓

飯山のことを詳しく伝えてくれる放送局だと思う。

4年生のときの社会見学で見たNHKと同じようなところだと思う。大きくて、たくさんの人が働いていると思う。

↓

i ネット飯山では、何人の人が働いているだろう？

↓

*指導；働いている人数の予想が立てられたところで、3人で働いている資料を提示する。

<資料；i ネット飯山で働いている人数>

学習問題；i ネット飯山は、どうやって3人で放送しているのだろうか

<資料；ニュースができるまでの行程 i ネット飯山の時系列の番組表>

↓

i ネット飯山に見学に行ってみよう。

学習活動3：“iネット飯山”を、課題にそって見学し、わかったことをまとめる。(3時間)

iネット飯山では、どのような工夫をしていましたか？



3人で放送ができるようにいろいろな工夫をしているんだな。

ニュース番組を作るのにはたくさんの時間がかかるんだな。

学習活動4：調査活動から生まれた新たな疑問について、体験をもとに予想を立てる。(2時間)

15分のニュース番組を作るのに何時間くらいかかるのかな？



総合的な学習でのニュース作りの経験を想起させ、15分の自作ニュースを作るのにかかった時間や作業を思い出す。

<資料；自作ニュース>



*指導；予想を一人一人が持てたところで、意見交換をしてから35時間かかることを言う。



学習問題；15分のニュース番組を作るのになぜ35時間も時間がかかるのだろう



3人しかいないから時間がかかると思う。

いい番組を作るためには、そのくらいの時間をかけないといけないんじゃないかな。

学習活動5：調査内容と補充資料から問題について話し合う。(1時間)

<資料；iネット飯山のニュース> (総合と合科のとき 資料；自作ニュース)

前時に立てた自分の予想を出し合う。



ニュースが出来上がるまでにすることが多いな。



こんなに多くの時間を何に使っているのかな？

<資料；15分のニュース番組における取材や編集にかかる時間>



編集作業より取材に時間がかかっている。

見ている人のことを考えて、わかりやすく、正確に伝えるためにはたくさんの時間が必要なんだ。

学習活動6：再び“iネット飯山”に見学に行き、工夫についての話を聞く。(1時間)

<資料；澤井さんのお話>

長い時間かけてニュースを作るのは、見ている人のことを考えて、分かりやすく正確に伝えるためなんだ。

全国放送局も同じ工夫をしているんだ。

全国放送局ならではの工夫もあるって言ってたね。

学習活動7：全国放送局について、調べるための見直しをもつ。(1時間)

見学で聞いた澤井さんの話を“工夫”の種類でまとめる。



学習問題：**全国放送局は情報を伝えるときにどんな工夫をしているのだろう**

＜資料；情報伝達手段の特性＞



どうやって調べよう。

*支援；全国の放送局については、子どもたちだけの力では資料も集めにくいので、できる限り多くの資料を用意しておくようにする。

学習活動8：全国放送局の工夫について調べる。(4時間)

＜資料；放送局のホームページ 放送に関する本 パンフレット等＞

全国放送局のしていた工夫を発表しましょう。

*指導；工夫の種類に分けてまとめていくようにする。



わかりやすく、正確に伝えるような工夫をしているんだな。iネット飯山と同じだね。

より速く情報を伝えるような工夫があった。

世界中の情報をニュースにしているんだな。

学習活動9：調べた内容を“iネット飯山”と比較してまとめる。(2時間)

iネット飯山と全国放送局の共通点や相違点は何だろう？



＜共通点＞

見たり、聞いたりする人にわかりやすく、正確に伝えるように工夫している。

正しい情報を集めるために、取材はしっかりとやっている。

編集も見やすいように、工夫をしている。

＜相違点＞

全国放送局は、新しい情報をより速く伝えるための工夫をしている。

全国放送局は、世界中から情報を集めて、放送をしている。

iネット飯山は、私たちに身近な情報を集めて、放送をしている。

iネット飯山は、同じ番組を何回も繰り返し放送しているので、見逃しても見ることができるのでいいと思う。



情報はいろいろとあるけど、どのように情報と関わっていけばいいのだろうか？



情報はたくさんあるけど、間違っただ情報に振り回されないようにしたい。

私たちの生活は、情報に支えられているんだなと思った。

(2) 資料の一部

<情報伝達手段の写真>



<i ネット飯山の番組表>

月 1月 28日	火 1月 29日
6:30 健康チャンネル ▽体操・音読・フリグパ・ズク (再8:30,11:30,13:30,16:30,22:00)	6:30 健康チャンネル ▽体操・音読・フリグパ・ズク (再8:30,11:30,13:30,16:30,22:00)
7:00 信州の力 1月号 (再12:00,16:00,20:00,23:00)	7:00 信州の力 1月号 (再12:00,16:00,20:00,23:00)
7:30 i ネット情報局 「いいやま情報便」 ▽森の家2月イベント紹介 ▽いいやま雪まつり情報 ▽廃棄物減量等推進 ▽雪像制作者会議 ▽就職求人情報 ▽ (再12:30,15:30,19:30,22:30)	7:30 i ネット情報局 「いいやま情報便」 ▽森の家2月イベント紹介 ▽いいやま雪まつり情報 ▽廃棄物減量等推進 ▽雪像制作者会議 ▽就職求人情報 ▽ (再12:30,15:30,19:30,22:30)
9:00 信大健康講座① ▽心臓癌や脳癌がないのはなぜか(再20:00)	9:00 信大健康講座① ▽心臓癌や脳癌がないのはなぜか(再20:00,23:30)
23:30ウィークエンド飯山(再) ▽みゆき野吹奏楽団	14:00ウィークエンド飯山(再) ▽みゆき野吹奏楽団

<時系列の番組表>

6:30 健康チャンネル
▽ 体操・音読・フリグパ・ズク
7:00 信州の力 1月号
7:30 i ネット情報局
「いいやま情報便」
▽ 森の家2月イベント紹介
▽ いいやま雪まつり情報
▽ 廃棄物減量等推進
▽ 雪像制作者会議
▽ 就職求人情報
8:30 再 健康チャンネル
9:00 信大健康講座①
▽ 心臓癌や脳癌がないのはなぜか
11:30 再 健康チャンネル
12:00 再 信州の力
12:30 再 i ネット情報局
13:30 再 健康チャンネル
15:30 再 i ネット情報局
16:00 再 信州の力 1月号
16:30 再 健康チャンネル
19:30 再 i ネット情報局
20:00 再 信州の力 1月号
20:00 再 信大健康講座①
22:00 再 健康チャンネル
22:30 再 i ネット情報局
23:00 再 信州の力 1月号
23:30 ウィークエンド飯山(再)
▽ みゆき野吹奏楽団

<澤井さんのお話>

全国放送局でも、i ネット飯山と同じように、テレビを見る人のことを考えてニュースを製作しています。情報を速く、正確に、わかりやすく伝える工夫をしている点は、全国放送局もi ネット飯山も同じです。ただ、全国放送局は、情報を集めてくる範囲が広いので、情報を整理したりまとめたりすることは大変です。それにニュースを見る人は、新しい情報が速くほしいので、全国放送局ならではの工夫もしています。

<放送局で働いている人数>

放送局	働いている人数
フジテレビ	1,423人
日本テレビ	1,083人
長野放送	91人
i ネット飯山	3人

<それぞれのメディアの天気予報>

① 新聞の天気予報

1(金)	
北部	50
中部	20
南部	10

天気 1日						
6時	9	12	15	18	21	夜6
飯山 最高 0 最低 -6						
2	1	0	1	0	0	0
長野 0 -7						
1	0	0	0	0	0	0

② インターネットの天気予報

時間	0時	3時	6時	9時	12時	15時	18時	21時
天気	☀	☀	☀	☀	☁	☁	☀	☁
気温(°C)	-4	-4	-4	-4	-1	-1	-2	-3
湿度(%)	—	—	—	—	—	—	—	68
降水量(mm/h)	0	2	1	1	0	0	0	0

〈事例：中1〉

単元名 「栄村の2大開発 ～野々海開発・さかえ倶楽部スキー場～」

1 教材化の視点

- ・ 身近な地域教材を取り上げる最大のねらいは、「胸を張って自分の郷土を語れるようになってほしい」ことにあると考えている。その際、距離的に近いことが必ずしも生徒が事象を身近に引き寄せて考えられる絶対条件ではないということを考慮する必要がある。
- ・ 栄村の教材化を計る際、「過疎」「産業面の停滞」などマイナスイメージを助長することなしに、今も残る地域の共同体としての「栄村のよさ」が実感でき、生徒が明るい展望を持てる単元展開を仕組むことが重要になる。

2, 教材の価値

(野々海開発)

- ① 耕地の拡大が村民の長年の悲願であったことに目を向けることができる。
- ② 自分たちの祖父母の代に、命がけで開発を行った人々の思いや営みにふれることができる。
- ③ 現在の自分たちの生活と、地形図の読み取りを通して関連させて考えることができる。

(さかえ倶楽部スキー場の開発)

- ① 自分たちが実際にスキーに行っている地元のスキー場でありながら、その開発に伴うさまざまな思いや課題については、多くの生徒が気づいていない。
- ② 開発や維持に関して、地元住民、行政担当者、スキークラブの指導者などたくさんの人々の様々な思いがあり、人々の心に思いを寄せながらの展開が期待できる。
- ③ 特にスキー場用地は元々は開拓農地であり、大変な苦勞をして開拓を勧めてきた地元の農民たちの姿や、栄村の将来のためにと土地を手放した思いに触れることを通して、困難を克服してきた郷土の先人たちに心を寄せながら、スキー場開発を多面的にとらえることができる。

3, 単元の大まかな流れ

栄村の農業はどのような特色がみられるだろうか？

「栄村の個別農産物生産額」

「農業租生産額」

→※資料を提示し、気づいたことを自由に発表させる。

米の生産が多い。畜産も多い。(烏甲牧場があるからだ)

「米の生産量の変化」

→※昭和20～30年代に米の生産量が劇的に増加していることに気づかせる。

なぜこの時期に米の生産量がこんなに増えているのだろうか？

「小学校資料」

→※小学校での学習を思い出させ、野々海の開発に着目させる。

→※野々海の開発は長期にわたり、多額の資金と地元の人々の苦勞、さらには責任者の殉職(現村長の父)などのうえに完成したことに気づかせる。

昔の人たちはとても苦勞して水田を増やしていったんだ。

栄村のどこで米の生産が広がったんだろう？

「栄村5万分の1の地形図」→※色塗り地図で水田の分布について気づいたことを発表させる。

栄村では千曲川の近くに水田が多い。千曲川から離れたところの水田がそうなんだ。

→※現在スキー場になっている、貝立山のふもとに着目させる。

今はスキー場になっているところも前は水田だったんだ。

「スキー場建設費用」

「スキー場賛否アンケート」→※さかえ倶楽部スキー場が、苦勞して開発した開拓地を造成してきたこと、多額の費用がかかり、反対も少なからずあったことに気づかせる。

どんな思いで「さかえ倶楽部スキー場は作られたのだろうか？

「村長さんの話」

「地主の農家の方の話」

「スキークラブの方の話」

「人口動態」

「月別観光客数」

「スキー場従業員一覧」

「その他広報さかえより」 →※様々な人の願いや思いのうえにスキー場が建設されたことに気づかせる。

役場の人も農家の人も、スキークラブの人も、栄村のためにいろんな願いを持ってスキー場を建設してくれたんだ。

→※財政面、環境面などの問題については軽く触れる。

栄村の観光地には他にどんなものがあるのだろうか？

「栄村の観光マップ」

→※振興公社の役割について説明する。

※栄村の観光の特徴である「収益性」よりも「人とのふれあい」を大切にするコンセプトについて説明する。

栄村は観光に力を入れていて、人とのふれあいを大事にしているんだ。

4. 授業で使った資料など

(1) 郷土「栄村」についての素材研究

○ 概要

- ・村の花 「かたくり」
- ・村の鳥 「ぶっぼうそう」
- ・村の木 「桐」
- ・村章 「ひらがなの『さ』を図案化」

○ 統計

- ・面積 270 km² (東西19 km、南北34 km)
- ・人口 2765人 男1329人、女1436人
2000年4月1日現在
最高齢者 関沢りん さん(100歳)

- ・形 「立ち上がったヘビ」

○ 自然

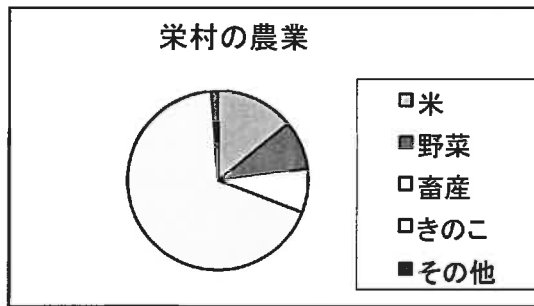
- ・山 苗場山、鳥甲山
火山…屋敷から見た「布岩」、苗場山山頂「溶岩が平らに流れた後の湿地」
「小赤沢」火山から流れる川なので、硫黄などで川の水が赤かった。
- ・川 志久見川(「しくむ」川の音がごうごううるさい)
中津川 群馬県「野反湖」から流れ出る
「河岸段丘」階段状の地形
- ・地名 横倉、青倉 「倉」=「がけ」の意味 「久保」低くてくぼんだ土地
- ・積雪 最高積雪量 7m85cm 平均3m

○ 産業

栄村の農業

(単位:百万円)

米	野菜	畜産	きのこ	その他
360	229	208	1754	34



平成11年度農業統計より作成

平成8年栄村の独自ブランド米「心づかい」(100%コシヒカリ)誕生

- ・特産物(伝統工芸品)
ねこつぐら、またたび、秋山木鉢、内山和紙、桐下駄等

○ 観光

- ・観光施設
さかえ倶楽部スキー場、物産センター「またたび」、トマトの国
北野天満温泉、雄川閣、のよさの里、楽養館、栃川高原温泉休憩所キャンプ場
野々海高原キャンプ場

(2) さかえ倶楽部スキー場の開発に関わる資料

- ・歴史
昭和30年代から スキー場建設を求める声はあるが、財政的な面で実現せず。
昭和60年 候補地の選定
自治省の「特定地域における若者定住促進等緊急プロジェクト」
により、70%の償還補助のある過疎債と55%の償還補助のある
地域総合整備事業債を利用することが可能になった。
「栄スキークラブ」発足
平成6年 スキー場建設に向けての具体的作業が始まる。
平成8年1月 オープン
- ・開発の概要
用地…貝立山山ろく(28ha)
ふもとは元開拓農地であった。
リフト4基(比較的小規模な部類)
総工費…30億円(起債25億円、一般財源5億円)
- ・開発の目的
雇用の確保(冬場30人程度)
村民が利用できるスキー場への期待。
「栄村の人が我が物顔ですべれるスキー場」が基本コンセプト
観光の通年化。(冬場の観光客誘致)
他産業への波及効果。
地元スキークラブの要望
地元村民の願い(平成2年村民300人へのアンケートで82%開発賛成)
- ・問題点
財政上の問題。過疎債などの償還が10億円。ピーク時には毎年9000万円を返済しなければ
ならない。年間の運営費としても約7000万円が見積もられ、スキー場の利益だけではま
かなえない。

(3) 貝立山のふもとの農家の方の話（「広報さかえ平成8年6月号」より、一部要約、改訂）

「大切な水田がスキー場に」 島田玉城さん（青倉）

あれは、戦争が終わってすぐ食糧がない時代のことでした。それ以前から耕地のない旧水内村にとって、野々海の開発による主食の確保が村民のたった一つの願いだった。多くの方の努力によって昭和24年から野々海の堤防作りに着工し、多くの困難と尊い犠牲者まで出して、昭和30年に完成されました。（その後水路をつなげる工事が続く）

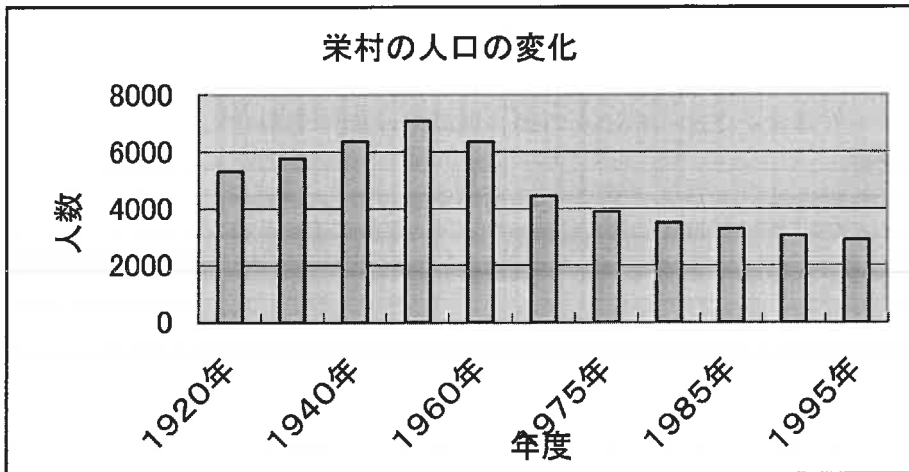
それから昭和36～37年にかけて私たちの開田が始まった。それは、耕せば耕す先から出てくる石の山との戦いだった。今スキー場になろうとしている一帯は、特に石の多い場所で、大きな石が一個出ると、つるはしと金棒で半日くらい格闘して、またその翌日もその石と対決することもある。それでも私有地開田（開田後は自分の田になる）だったので、土地に対する愛着が強く、波打つ青田を夢に描きながらがんばった当時のことが、昨日のように思い出される。

あれから30数年が過ぎた今、私たちの大切な水田がスキー場が変わる。

歴史とはこういうものなんだと思う。大勢の家族がその日食べるものにも困る時代から、今は豊かな時代になった。だんだんと若い人が都会へ出て行ってしまい、田んぼを耕す人も少なくなってきた。荒れた田んぼも増えてきた。時の流れは誰にも止めることはできない。

でも、あきらめの気持ちで田んぼを手放すのではなく、私たちが開田によって生きる希望を見つけたように、スキー場開発によって栄村の未来に小さな明るい灯があるとすれば、私は次の世代に望みを託したい。

(4) 栄村の人口の変化



(5) 栄村の月別観光地利用者数

